

◇展示

○令和二年六月一二日～ インターネット上で映像公開

春季展示「彦根から遙かなる琉球を想う」

○令和二年一〇月一九日～ 十一月二〇日

企画展「地域とともに歩む彦根高等商業学校」(史料館一階展示室)

Web展示もホームページ上で公開(令和二年一十一月一六～二〇日)

○令和二年一〇月二一日～ 十一月二〇日

企画展関連ビデオ講演 インターネット上で映像公開

「高等教育の拡充と都市の再編―旧制彦根高商の建築遺産―」

鹿兒島大学大学院理工学研究科工学専攻教授 木方十根氏

◇開催の記録

今年度の春季展示は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮し、映像による公開を行った。映像では、まず琉球貿易図屏風について、中国(清)から那覇港に戻った進貢船に薩摩藩士が乗る船が漕ぎ寄る場面や、首里城が描かれた箇所などをアップにして紹介した。さらに近世の琉球王府が江戸幕府に対して派遣した外交使節団である「琉球使節」が、鳥居本宿(現彦根市域)で休憩・宿泊したことに關わって作成された史料(寺村家文書)を展示したコーナーを映し、琉球と彦根との歴史的なつながりを説明した。最後に令和元年秋に発生した首里城火災に言及して、復興支援への協力を呼びかけた。

展示映像ではナレーションに合わせて屏風中の関連箇所を丸で囲むア

ニメーションで示したり、史料中のくずし字の横に解読文や傍線を入れたりするなど、視聴者の理解を促す工夫を凝らした。

企画展では、彦根高等商業学校の講堂として建てられた滋賀大学講堂の耐震改修が今年度完了したことを受けて、彦根高商と講堂の歴史について、地域とのつながりに注目しながら特集した。実際の展示では、彦根高商の創立と地元からの寄附、地域における文化・教育拠点としての講堂の活用、彦根高商当時の写真、史料館の歴史についてのコーナーをそれぞれ設けて、当時の新聞記事や卒業アルバムの写真、高商期の史料などによって構成した。新聞記事は京都府立図書館・彦根市立図書館・本学の経済経営研究所、卒業アルバムと史料は史料館・経済学部・経済経営研究所・一般社団法人陵水会(同窓会)などで所蔵するものを、パネル化するなどして展示した。

なお展示企画と図録執筆には、本学の阿部安成教授と大学院経済学研究科博士後期課程の今井綾乃氏による全面的な協力を得た。

企画展の観覧については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、同時に見学できる人数を制限するなど配慮した上で開催した。見学者は一〇七名(学内二七名・学外八〇名)であった。また、来館することのできない方々のためにWeb展示を制作し、短期間ではあったが会期終了までホームページ上で公開した。

関連講演会は、木方十根氏による講演ビデオをオンデマンド方式で公開した。公開期間中の視聴回数は一三八回であった。なお史料館に寄せられた要望を受けて、講演映像については木方氏の了承を得て、一般社団法人陵水会で今後の利活用が可能となった。

昨年度の学長裁量経費によって作成した菅浦文書のレプリカ四点につ

いては、企画展にあわせて展示室の常設展示コーナーでの公開を開始した。

◇「菅浦文書」の再調査

今年度も史料館では科学研究費助成事業（基盤研究（A））「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」（研究代表者・青柳周一、平成二八年度より五年間）に基づいて、研究分担者（滋賀大学・滋賀県立大学・立命館大学・東京大学史料編纂所・琵琶湖博物館それぞれの教員・非常勤講師・学芸員、本館客員研究員）および研究協力者（福井県庁生涯学習・文化課学芸員、京都府立京都学・歴史館職員）、研究補助者と共に、国宝「菅浦文書」の再調査を行った。

具体的には、「菅浦文書」中の史料一点ごとに、研究史上でどのように解説・解釈されているかを点検してデータ化し、それを踏まえて刊本『菅浦文書』の翻刻文を原本と照合してチェックする作業を実施した（原本保護の観点から、実際の照合作業には主にデジタル画像を使用）。『菅浦文書』での人物・年代比定や史料名などにも修正を加えた。また今年度は、平成二四年度から始めた校訂結果の見直しを開始して、初期の作業内容の点検と、人物・年代などに関する修正方針の再検討も行った。さらに、索引の作成に向けて、語句のチェック作業を開始した。

作業は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンライン研究会形式で合計一八回行った。現在の科学研究費助成事業の期間は今年度が最終となるが、来年度以降も再調査を継続する予定である。

（青柳）

◇史料整理

川瀬治彦家文書（近江八幡市）九三二点・塚本共有文書後発見分（東近江市）二〇七四点・堤惣平家文書（彦根市）三三二点・真崎文庫浮世絵資料 四〇点

◇発行

SAMにゆうす五二号、五三号

『地域とともに歩む彦根高等商業学校』（令和二年度企画展図録）

◇学内雑誌掲載日本史論文

『彦根論叢』第四二四号

「ハンセン病をめぐる療養所を、訪う、知る、報せる（3完）「おひい様と呼ばれ」たひと井伊文子」阿部安成

書評「阿部安成著『大島ユリイカーハンセン病をめぐる国立療養所大島青松園の歴史表象』（滋賀大学経済学部研究叢書第五二号）滋賀大学経済学部 二〇一九」柏木亨介

『彦根論叢』第四二五号

「帝国日本の官立高等商業学校を考える参照項 上 ―近年の研究動向をふまえて―」阿部安成 今井綾乃 坂野鉄也

『彦根論叢』第四二六号

「陶磁器産業における会社企業の企業形態的特質と経済的機能 ―明治期から大正期における有田焼産地の事例に基づいて―」

柴田淳郎

「明治末期の鉄道請負業者の多角化リスク ―千葉県船橋の『落ちた偶像』 遠藤君蔵の衰退事例」小川功

「帝国日本の官立高等商業学校を考える参照項 中——近年の研究動向をふまえて——」阿部安成 今井綾乃 坂野鉄也

『彦根論叢』第四二七号

書評「阿部安成著『島の野帖から ハンセン病をめぐる療養所がある島でのフィールドワークから歴史を縁どる試み』(滋賀大学経済学部研究叢書第五一号) 滋賀大学経済学部 二〇一八」福浦厚子

『滋賀大学経済学部研究年報』第二七卷

「初期高等商業学校における経済学教育——一八九三年までの東京高等商業学校における「経済」と「統計」——」坂野鉄也

Working Paper No295

「ハンセン病をめぐる療養所を、訪う、知る、報せる(1)——「沖繩のらい者の父」青木恵哉——」阿部安成

Working Paper No297

「ハンセン病をめぐる療養所を、訪う、知る、報せる(2)——「人氣俳優」と「社会社説担当」——」阿部安成

◇運営委員

阿部安成 渡邊凡夫 井澤龍(令和2年9月末まで) 石井利江子

◇史料館職員

館長 坂野鉄也

専任教員 青柳周一 兼任教員 須永知彦

学芸員 南田孝子 吉岡恵 非常勤職員 岸妙子 松崎由貴代

◇客員研究員

水野章二 大島久幸 谷ヶ城秀吉 深見泰孝